

確かな学力向上を図る授業と家庭学習の工夫

【吉川市教育委員会】

1 学校、学年、教科 小学校、全学年、算数

2 ねらい

基礎・基本の確実な定着を図るとともに思考力・判断力・表現力の育成を図るため、授業及び家庭学習の改善を図る。具体的に①授業の統一化、②具体物を用いた導入の工夫、③指導と評価の一体化、④話し合い活動（協同的問題解決）、⑤「家庭学習の手引き②」の作成と実践、⑥「家庭学習ノート」の活用を行う。

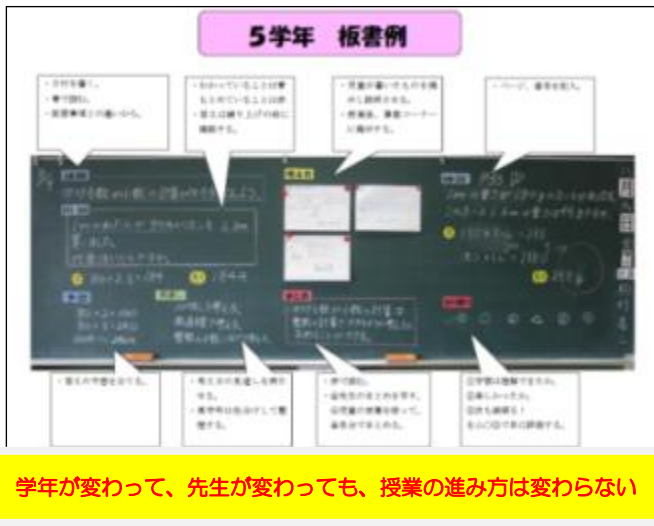
3 取組内容

①授業の統一化

授業の進め方と板書の基本的な型を統一し、学校全体とし系統性をもって6年間の学習を進められるよう、「新・〇〇小スタイル」を作成し、学校全体で共通理解を図った。

また、ノートの取らせ方についても学年で共通理解を図り、書き方、ノートの升目を統一した。

- 1年：10マス
- 2年：12マス
- 3年：15マス
- 4～6年：10mm
方眼



②具体物を用いた導入の工夫

数学的思考と児童の生活体験を結びつけるため、具体物を用いて授業の導入を工夫し、実践した。

工作用紙を、ゆきさんは $\frac{4}{5}$ m²、よしひろさんは $\frac{3}{5}$ m²使いました。使った工作用紙の面積は、あわせて何m²ですか。

〇〇先生は牛乳を $\frac{4}{5}$ L、□□先生は $\frac{3}{5}$ L 飲んだんだよ。あわせて何L 飲んだかな。

より身近な題材にするため、「牛乳」に変更。

生活に身近な具体物

牛乳パックを開くと、分数の図となる。

数学的思考のもとになる数や図

③指導と評価の一体化(カラーカードの導入)

「見通し」の段階で出された問題の解決方法を色分けし、児童がそれぞれの方法で問題解決に取り組むかをカラーカードで示すことで、教師が適切な見取りと指導をできるようにした。

見通し

- 平行四辺形
- 長方形
- 正方形
- 三角形
- その他

君の考え方なら、こうするといいよ。

私はこの解き方で考えたよ。

いろんな考え方で解けるんだね。


自己決定(判断力)

指導と評価の一体化

多様な考えを育む

④話し合い活動（協同的問題解決）

自分の考えや意見の発表を中心とした従来の話し合い活動に加え、教師が提示した誤答の間違いの理由をグループで考えるなどの協同的な話し合い活動を取り入れた。



3年生で分母は足しちゃダメって教わったよ。

7/10Lじゃ、足しているのに 4/5Lより小さくなっちゃうよ。

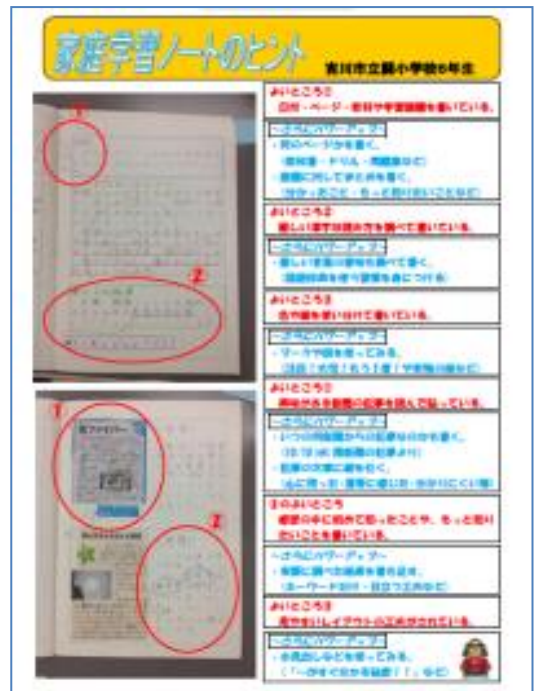
1/5Lをもとにするんだから、1/5 がいくつあるかを求めないといけないんじゃないかな。

どうして
 $3/5 + 4/5 = 7/10$
にしてはいけないのかな？

話し合いながら1つの課題をグループで解決することで思考が深まる。

⑤「家庭学習の手引き②」の作成と実践

昨年度作成した「家庭学習の手引き」をより具体化するため、「よいノート」や「よい学習課題」を学年ごとに例示した「家庭学習の手引き②」を作成し、学年ごとにオリエンテーションを行ったうえで実施した。



・「家庭学習の手引き②～家庭学習ノートのヒント集～」主な内容
～家庭学習で「心の交流」を～

1 家庭学習ノートで勉強するメリット

- ①勉強グセを習慣づける
- ②基礎力のアップ
- ③創造性と自主性がアップ
- ④プレゼンテーション能力が磨かれる
- ⑤子どもの学習進度や習熟度が把握できる
- ⑥子どもの心身の状態が把握できる

2 家庭学習ノート 3つのポイント

- ①学習道具をきちんとそろえる
- ②文字や数字はていねいに見やすくまとめる
- ③日付や教科名を必ず書く

そのノートの「よいところ」と、さらによくするためのヒントを「さらにパワーアップ」として示す。

⑥「家庭学習ノート」の活用

「家庭学習ノートコーナー」を作成し、児童の「よいノート」を掲示した。また、各クラスの学級通信で「よいノート」を紹介し、家庭学習への協力を継続して呼びかけた。



4 成果と課題 (○印は成果, △印は課題)

- 「新・〇〇小スタイル」の作製により系統性をより明確にして6年間の学習を進められるようになった。
- カラーカードにより教師が児童の学習の様子を的確につかめるようになり、指導や支援、評価をより適切に行えるようになった。また、多様な考え方ができるようになり、話し合い活動が活発になった。
- 具体物を用いた導入により児童の問題解決への意欲が高まり、また問題解決に向けた具体的操作が多くみられるようになった。
- 「家庭学習の手引き②」の作成により家庭学習のやり方がより明確になり、児童がより主体的に家庭学習に取り組めるようになった。また、「家庭学習ノートコーナー」や学級通信での呼びかけにより児童がよりよい学習の進め方に気づくことができた。また、家庭学習の取組が保護者に伝わり、理解・協力を得られるようになった。
- △家庭学習の取り組み方に個人差が見られる。自主的な学習に加え、基礎基本の定着を着実に図るための学習が必要である。